

令和3年度 第1回 富良野市廃棄物減量等推進審議会 議事録（要点筆記）

開催日時 令和3年10月8日（金） 午前9時55分から午前11時30分まで

開催場所 富良野市役所 大会議室

出席者 委員 軽米達也、中野義弘、寺島聡、鎌田勲、吉田末子（計5名）

（欠席：高橋譲二、関野孝子、増田義樹、尾崎汀子）

事務局 山下市民生活部長、高橋環境課長、山岡環境係長

【環境課長の進行で開会】

○辞令交付 委員欠席

○市長挨拶（市民生活部長）

本日お集まりいただいた委員の皆さまには富良野市の環境行政を始め市政全般にわたり、ご尽力とご協力いただき感謝申し上げます。

本日の富良野市廃棄物減量等推進審議会でございますが、報告事項3件、議事2件、その他1件について審議して頂きたい。

富良野市災害廃棄物計画（素案）であります。災害発生前からの対策、発生時における適正かつ迅速な災害廃棄物の処理を行うことで市民生活の影響を最小限にする計画である。

緊急事態宣言が9月30日で解除されたが、北海道においては10月いっぱい特別対策期間となっている。新型コロナウイルス感染対策においては、まだ予断を許さない状況である。

富良野市内でのワクチン接種は10月をもって希望者全員に2回の接種が終わる予定、接種対象者の12才以上の人数は19,111名で接種率は88.7%と聞いている。

○軽米委員長挨拶

本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。短い時間の中で審議会を進めていきますので、皆さまからのご意見お願いいたします。

○事務局

本日の会議について、委員9名中、出席5名、欠席4名、富良野市廃棄物減量等推進審議会規則第5条により過半数の出席により成立していることをお知らせします。

【以降軽米委員長の進行】

○報告事項 1)、2)、3) 会議資料をもとに一括して事務局より報告。

Q. 紙おむつは現在どういう処理をしているのか。

A. 現在は、上富良野町の焼却炉を利用して焼却している。一部病院から出るものについては、民間の施設を使って再資源化している。年間110tを再資源化して、500t位を焼却している。

Q. 粗大ごみについて、排出量は増えているがインターネット等の申し込みは少ないとの事だが。

A. 粗大ごみを出す方は年配の方が多く、窓口に来て対面で対応するのが慣れているのか多い。若い方は、インターネットやスマホを使って申し込んで頂いている。広報などで周知していく。

Q. 紙おむつのリサイクルシステムについて、コスト的どうなのか。

A. コストを含め、実証実験を行っている。14分館が始まったころは、1tあたり25,000円の処理費用だったが、現在は1tあたり51,000円になっている。この51,000円を超えない資源化を考えている。こういったことも含めて実証実験を行っています。

○議事 1) 令和3年度廃棄物の処理及びリサイクル事業概要について事務局より説明。

(令和3年度廃棄物の処理及びリサイクル事業概要は事前配布済み)

補足説明 環境美化運動について、新型コロナウイルス感染症の影響で、みなさんが集まってごみ拾いを行うことが難しいというお話が多かったため昨年より、各家庭にごみ袋を1枚配布して頂き、家の周りのごみを拾って頂いている。

Q. 令和3年度の処理計画量と令和2年度の実績量と同程度とみられる。令和2年度実績は令和元年度比で約マイナス400tとなっている。令和2年度はコロナ禍で事業系の排出量が減少したと思われるが、令和3年度においても令和2年度同様と判断された理由は何ですか。令和元年度、令和2年度の各品目の実績を示していただき説明してください。

A. 計画時時点では、新型コロナウイルスの影響も全国的に拡大している状況であったため令和2年度と同程度とした。また、各品目の実績ですが、令和2年度について生ごみの収集量が280t、固形燃料ごみが130tと前年度より少なくなっている。宿泊業、飲食店からの排出が減ったものとする。いっぽうで、巣ごもりで家にいる時間が増えた影響が粗大ごみが例年に比べ13t以上増えている状況です。

○議事 2) 富良野市災害廃棄物処理計画(素案)について事務局より説明

(富良野市災害廃棄物処理計画(素案)及び(資料編)は事前配布済み)

Q. 職員への教育訓練には、国・地方公共団体と協定を締結している民間事業者も訓練に含まれるか。訓練内容や訓練頻度についてどう考えているのか。

A. 訓練に関しては、現在のところ環境課の職員に対しての教育と考えている。

また、教育方法については国や道が主催する研修会やワークショップの参加を想定しており、環境課からも継続的に開催するよう要望を出している。将来的には協定を結んでいる民間業者との訓練もあり得ると思うが、まずは災害発生時に主体となる市職員の教育が重要と考えている。

Q. 収集運搬のルート計画を策定し、とありますが、昨今各分野で活用されているA I活用によるルート計画の検討はあるか、また冬季降雪時に対するルート検討とあるが富良野市はA I活用にも積極的と思うが見解を示してください。

A. A Iによるルート計画の検討ですが、環境課としての具体的な取り組みはありません。しかし、富良野市全体のI C T（情報通信技術）の普及が進めば平時に限らず災害時においても収集ルートの計画が経験と勘に頼ることなく構築可能と考えています。なお、今年度より除排雪業務に関してはG P Sスマートフォン等を活用した除排雪管理システムを構築する予定なので、それらの進捗を参考にしながら廃棄物処理の活用方法を検討します。

○その他 1) 富良野市一般廃棄物処理基本計画について

次年度、富良野市一般廃棄物処理基本計画の策定年度になるため、審議会を3回から4回を予定しているのでご協力お願いします。

昨年度開催時にご質問のあった、ごみ袋に名前を書く欄を作れないかという事ですが、メーカーに問い合わせたところ、可能だが印刷原版を変更しなければならないため、1枚あたりの単価が4円上がるとの事であった。値上げをしてまでとなると難しいと考える。裏面や印字されていない部分を活用してご協力願いたい。

○閉 会 11時30分